

平成22年5月10日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2009

課題番号：19520359

研究課題名（和文） 現代スペインの諸言語に関する統語的研究

研究課題名（英文） A syntactic study of the languages of Modern Spain

研究代表者

福嶋 教隆（FUKUSHIMA NORITAKA）

神戸市外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号：50102794

研究成果の概要（和文）：スペインでは、一般に「スペイン語」と呼ばれている「カスティーリャ語」以外に、カタロニア語、ガリシア語、バスク語などが用いられている。本研究では、これら4つの言語の統語的（文法的）特徴を23項目にわたって記述した一覧を作ってその比較を容易にし、またそれぞれの言語についての論文を発表して、多言語国家の言語使用状況の理解と語学教育に貢献した。

研究成果の概要（英文）：This project focuses on the four major languages spoken in Spain, Castilian (Spanish), Catalan, Galician and Basque. It provides 23 tables that compare the syntactic properties of these languages and four monographs about them. Together they show some aspects of the actual situation of a multilingual nation, and provide insight and recommendations for foreign language instruction.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	500,000	150,000	650,000
2008年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2009年度	1,700,000	510,000	2,210,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：その他の語学，スペインの諸言語，カスティーリャ語（スペイン語），カタロニア語，ガリシア語，バスク語，統語論

## 1. 研究開始当初の背景

スペインの諸言語それぞれに関する研究は、近年我が国においても進展が著しく、多くの成果が公にされている。特に社会言語学的な観点からの論考が増えてきた。しかし各言語の構造そのものを単一の視点から横断的に抜おうとする試みは、まだ十分とは言えなかった。

特に統語論の事象は複雑な諸要因が関与していることから、実用的にも理論的にも重要な分野であるにもかかわらず、その言語間の対比研究には、なお開発の余地と必要性が大いにあった。

## 2. 研究の目的

本研究は、上記の問題を克服すべく、スベ

インの主要な4つの言語、即ちカスティーリャ語（スペイン語）、カタロニア語、ガリシア語、バスク語を研究する研究者がチームを組んで、統一的な基準で記述したリファレンス資料を作成することを目的とした。

### 3. 研究の方法

各人が1つの言語を担当する4人から成るチームを作り、共通資料体と、記述すべき統語論のテーマを決定した。

共通資料体には、『ハリー・ポッターと賢者の石』、『星の王子さま』の各言語版を選んだ。いずれかの言語に比重が偏るのを避けるため、原作が他言語で書かれており、20世紀を舞台とし、平易な表現が用いられ、地の文も会話文も多出するからである。

『ハリー・ポッターと賢者の石』では、次の訳書の第I～VI章を対象とした。『星の王子さま』と均等の分量にして、かつ、対象をなるべく日常的な場面を扱った部分に限定するのが、その理由である。1. カスティーリャ語版：J. K. Rowling, *Harry Potter y la piedra filosofal*. Traducción de Alicia Dellepiane, Ediciones Salamandra, Barcelona, 2002<sup>32</sup>, pp. 9-13. 2. カタロニア語版：J. K. Rowling, *Harry Potter i la pedra filosofal*, Traducció de Laura Escorihuela, Editorial Empúries, Barcelona, 2002<sup>16</sup>, pp. 7-11. 3. ガリシア語版：J. K. Rowling, *Harry Potter e a pedra filosofal*, Traducción de Marilar Aleixandre, Editorial Galaxia & Ediciones Salamandra, Vigo, 2002<sup>2</sup>, pp. 9-12. 4. バスク語版：J. K. Rowling, *Harry Potter eta sorgin-harria*, Traducción de Iñaki Mendiguren, Elkarlanean & Ediciones Salamandra, Donostia (San Sebastián), 2000, pp. 7-11.

『星の王子さま』では、次の訳書の全編を対象とした。1. カスティーリャ語版：Antoine de Saint-Exupéry, *El principito*, Traducción de Bonifacio del Carril, Yohan Publishing, Tokio, 2002<sup>10</sup>. 2. カタロニア語版：Antoine de Saint-Exupéry, *El petit príncep*, Traducció de Joan Xancó, Editorial Laia, Barcelona, 1984<sup>3</sup>. 3. ガリシア語版：Antoine de Saint-Exupéry, *O pincipiño*, Traducción de Carlos Casares, Editorial Galaxia, Vigo, 2002<sup>13</sup>. 4. バスク語版：Antoine de Saint-Exupéry, *Printze txikia*, Traducción de Iñaki Sipiri, Txertoa Argitaldaria, Donostia (San Sebastián), 1993.

本研究の対象とする4言語の対比として、これらのテキストが利用されたのは、これが初めてだと思われる。

記述すべき統語論のテーマとして次の21

項目を選び、概論として「歴史」、「現状」を付け加えた。「肯定文と否定文」、「平叙文」、「疑問文」、「命令文」、「感嘆文」、「主語など」、「直接目的語など」、「間接目的語など」、「SV構文」、「SVC構文」、「SVO構文」、「SVOO構文」、「SVOC構文」、「態」、「使役」、「再帰」、「単文と複文、重文」、「名詞節」、「形容詞節」、「副詞節」、「比較級、最上級」。

平成19年度は、2回の研究会を開催し、各言語に関する発表を行った。発表者と題目は以下のとおりである。福嶋教隆：「カスティーリャ語の統語論的諸トピックについて」、長谷川信弥：「カタロニア語の統語的特徴(1)」、浅香武和：「現代ガリシア語における動詞体系の問題点」、吉田浩美：「バスク語の統語的特徴」。

構成員は、ある言語で見られる現象が他の言語では見られない、といった事例を知る機会が多く、互いの知識を交換して、非常に刺激的な研究会であった。

また同年度より研究報告書の執筆を開始した。

平成20年度は、2人の構成員（福嶋教隆、浅香武和）がスペインで現地調査と資料収集を行った。また、研究報告書の執筆を継続した。

平成21年度は、研究会を開催し、各言語に関する発表を行った。発表者と題目は以下のとおりである。福嶋教隆：「creer 疑問文の従属動詞の叙法について」、長谷川信弥：「カタロニア語諸方言における動詞直説法現在の活用パターンについて」、浅香武和：「ガリシアアカデミアの最近の見解について」、吉田浩美：「バスク語アスペイティア方言の〈絶対格 NP—動詞—da 助動詞〉の構造による非人称表現」。

この年度の研究会は、報告書に掲載する論考を念頭においての発表が多く、内容をめぐって長時間にわたる討議が行われた。

また、3人の構成員（長谷川信弥、浅香武和、吉田浩美）がスペインで現地調査と資料収集を行った。研究報告書の執筆を続け、編集・印刷を経て刊行した。

### 4. 研究成果

平成21年3月31日、研究報告書を刊行した。題名：『現代スペインの諸言語に関する統語的研究』。著者：福嶋教隆、長谷川信弥、浅香武和、吉田浩美。構成：第1章「研究概要」、第2章「スペインの諸言語の統語論対比一覧」、第3章「スペインの諸言語の統語的研究」、第4章「スペインの諸言語の対比テキスト1」、第5章「スペインの諸言語の対比テキスト2」、第6章「スペインの諸言語に関する日本における文献一覧」。A4版、216ページ、160部。

本報告書は、「スペインの諸言語のロゼツ

タ・ストーン」,あるいは「現代の Biblia Políglota Complutense (アルカラ大学多言語訳聖書)」を目指すものである。

第1章「研究概要」は、本研究の趣旨の説明に充てられている。また、この章の前に構成員の平成19~21年度の研究・教育業績の一覧を掲げている。

第2章「スペインの諸言語の統語論対比一覧」は、23項目について4言語の基本的な記述を行ったものである。1つの言語に半ページを充て、2ページ見開きの形で4つの言語の特徴が比べられるようになっている。例文は、できる限り共通資料体から採取するようにつとめ、統一性を保っている。これまで類例のない、理論的かつ実用的に有意義な試みであると思われる。

第3章「スペインの諸言語の統語的研究」は4つの論考から成っている。その内容は以下のとおりである。福嶋教隆：『「ハリ・ポッターと賢者の石」第I~VI章(カスティーリャ語版)の叙法について』(研究資料),長谷川信弥：「カタロニア語 quan 節における法選択について」(論文),浅香武和：「ビラノバ・デ・オスコス文書に見る中世ガリシア語の人称不定詞について」(論文),吉田浩美：「バスク語の助動詞と動詞単純形の形態~共通バスク語と三つの方言の比較~」(論文)。

第4章「スペインの諸言語の対比テキスト1」は、『ハリ・ポッターと賢者の石』の冒頭の数ページの諸言語版(英語,カスティーリャ語,カタロニア語,ガリシア語,バスク語,日本語)が見開きの形で示され,それぞれの特徴が対比できるようになっている。

第5章「スペインの諸言語の対比テキスト2」は、『星の王子さま』の第I~II章の諸言語版(フランス語,カスティーリャ語,カタロニア語,ガリシア語,バスク語,日本語)が同じく見開きの形で示されている。

第6章「スペインの諸言語に関する日本における文献一覧」は,これまでに蓄えられた知見の存在を知らしめる目的で編まれた章である。配列は著者名アルファベット順で,扱われた言語を左端に記号で記し,検索を容易にしている。

刊行後は,構成員1人が40部ずつ担当し,ほぼ全部数を関係研究機関,研究者に配布した。

本研究は,カスティーリャ語,カタロニア語,ガリシア語というロマンス語だけでなく,全く系統の異なるバスク語をも対象とすることによって,広い視野を得ている。また,いずれの言語にも偏らず4方向から均等に照射することによって,スペインの言語状況を隈なく浮かび上がらせる点が大きな特徴である。せつかく軌道に乗った共同研究であり,課題はまだまだあるから,今後も発展させていきたい。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者,研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計9件)

- ①吉田 浩美(研究協力者)「バスク語アスペイティア方言の〈絶対格 NP-動詞-da 助動詞〉の構造による非人称表現」,『東京大学言語学論集』(査読あり),第29号(上野善道先生退職記念号),2010,pp.350-379,東京大学言語学研究室。
- ②福嶋 教隆「イスパニア語に翻訳された日本文学に関する一考察」,『神戸外大論叢』(査読なし),第60巻第1号,2009,pp.65-83,神戸市外国語大学。
- ③浅香 武和「国境の村の言語調査から」,『津田塾大学国際関係研究所所報』(査読なし),第44号,2009,pp.16-21,津田塾大学。
- ④吉田 浩美(研究協力者)「イスタンブルのユダヤ・スペイン語の現在分詞構文」,『チュルク諸語における固有と外来に関する総合的調査研究』(久保智之,林徹,藤代節・編)(査読あり),2009,pp.63-80,九州大学大学院・人文科学研究院。
- ⑤福嶋 教隆「el hecho de que 節中の叙法に関する通時的考察」,『神戸外大論叢』(査読なし),第59巻第2号,2008,pp.15-30,神戸市外国語大学。
- ⑥福嶋 教隆“The mood in the appositive clause preceded by *el hecho de que* in Spanish”, *Linguística Hispánica* (査読なし),第31号,2008,pp.1-22,関西スペイン語学研究会。
- ⑦長谷川 信弥「オック語アラン方言(アラン語)の記述に関する問題点の考察(1)」, *Estudios Hispánicos* (査読なし),第33号,2008,pp.5-12,大阪大学外国語学部スペイン語部会。
- ⑧浅香 武和「消滅の危機にある公用語・ミランダ語」,『言語』(査読なし),2008年4月号,2008,pp.82-87,大修館書店。
- ⑨福嶋 教隆「イスパニア語の感情を表す語句に導かれる接続法について」,『神戸外大論叢』(査読なし),第58巻第3号,2007,pp.53-72,神戸市外国語大学。

[学会発表](計3件)

- ①浅香 武和「ガリシアの国境地域のことばと文化」,セルバンテス懇話会2009年度大会,於セルバンテス文化センター東京,2009年6月27日。
- ②福嶋 教隆“Asociación Japonesa de Hispanistas en el marco del hispanismo asiático”, Seminario “Presente y Futuro del Español en Japón”(セルバンテス文化センター東京,京都市外国語大

学, スペイン大使館・主催), 於京都外国語大学, 2008年11月13日。

③福嶋 教隆 “The mood in the appositive clause preceded by *el hecho de que* in Spanish”, Oxford-Kobe Seminars. The Fourth Linguistic Seminar (The history and structure of the Romance languages), 於 Kobe Institute, 神戸, 2008年4月2日。

[図書] (計7件)

- ①福嶋 教隆, 長谷川 信弥, 浅香 武和, 吉田 浩美 (研究協力者) 『現代スペインの諸言語に関する統語的研究』, 2010, 平成19~21年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書, 216Pp。
- ②福嶋 教隆 『スペインの宝——スペインの言葉入門』, 2009, 同学社, 106Pp。
- ③福嶋 教隆, 吉田 浩美 (研究協力者) 『事典 世界のことば 141』(梶 茂樹, 中島 由美, 林 徹・編), 「105. スペイン語」(pp. 428-431)を福嶋, 「108. バスク語」(pp. 440-443)を吉田が執筆, 2009, 大修館書店。
- ④浅香 武和・編訳 (Castro de Murguía, Rosalía 原作) 『ガリシアのうた +CD』, 2009, DTP出版, 283Pp。
- ⑤吉田 浩美 (研究協力者) 『バスク語のしくみ』, 2009, 白水社, 144Pp。
- ⑥長谷川 信弥, 吉田 浩美 (研究協力者) 『世界のことば・辞書の時点 ヨーロッパ編』(石井 米雄・編), 「カタロニア語」(pp. 248-255)を長谷川, 「バスク語」(pp. 272-282)を吉田が執筆, 2008, 三省堂。
- ⑦浅香 武和 『スペイン内戦とガルシア・ロルカ』(川成 洋, 坂東 省次, 小林 雅夫, 渡部 哲郎, 渡辺 雅哉・編), 「サンティアゴの町へのマドリガル」に思いを馳せる」(pp. 374-384)執筆, 2007, 南雲堂フェニックス。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

福嶋 教隆 (FUKUSHIMA NORITAKA)  
神戸市外国語大学・外国語学部・教授  
研究者番号: 50102794

### (2) 研究分担者

長谷川 信弥 (HASEGAWA SHINYA)  
大阪大学・大学院言語文化研究科・准教授  
研究者番号: 20228448

浅香 武和 (ASAKA TAKETAZU)  
聖心女子大学・文学部・非常勤講師  
研究者番号: 20516348

(H19→H20: 研究協力者)

(3) 連携研究者  
なし

### (4) 研究協力者

吉田 浩美 (YOSHIDA HIROMI)  
早稲田大学・  
オープン教育センター・非常勤講師  
研究者番号: 70323558